

戸村委員長の遺志ひきつぎ 81.3 ジェット決戦勝利へ

日刊 動労千葉

80.11.11

No. 579

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八、九、八、〇(品)二二七二〇七



労農連帯の良き理解者

戸村委員長が、生前三里塚闘争勝利に不可欠なものとして労農連帯の重要さとその意義をつねに示してくれたことを、われわれは忘れてはならない。

動労「本部」反動分子によるジェット闘争の裏切りと敵対策動の中にあつて「拒否から阻止」への叩きをうち出した時に「労農同盟」という言葉をわれわれはつかいませぬ。労働者と農民の叩いがその利害において一致していることははつきりしています。……ともに叩う場合、農民の立場と国鉄労働者の立場は非常にちがっているとおもいます。……国鉄労働者の場合、……いふならば資本主義のつくった舟の上に乗って叩うというものであり、これは並大抵の勇気ではできません。そういふ困難性の中で叩うみなさんは、決して一刻だけを終つてしまふような叩

デモの先頭にたつありし日の戸村委員長(右端) 77.11.20

三里塚芝山連合空港反対同盟の戸村一作委員長が、病床のなかにあつても、ひたすら三里塚闘争勝利を確信しつつ不帰の人となつてはや一年をすぎた。三里塚闘争が八一年二期着工阻止、三月ジェット燃料質車輸送延長阻止という、三里塚闘争史上重大な決戦局面をむかえたいま、戸村委員長がほとぼる闘争精神をもつて語られた「三里塚闘争と動労千葉の革命的連帯こそ勝利の道だ」といふ遺訓を改めてつかみとり、われわれは八一・三ジェット決戦勝利、日本労働運動の戦いの再生にむけ決起しなければならぬ。

いの道をとらず、息の長い叩いをして欲しいと思ひます」と長期強靱な叩いの必要性を訴えられ、そして「三里塚と動労千葉の革命的連帯こそ八〇年代の日本を革命にまで導く不可欠なものです」と労農連帯の道をさし示してくれた戸村委員長の遺した教訓をわれわれは常に叩いの糧としていかなければならない。

八一・三総決起こそ 戸村委員長にこたえる道

いま政府・空港公団は、「成田用水」「農振策」をもちつて、反対同盟にたいする分断、破壊攻撃を展開してきている。

そして、動労千葉にたいしても、国鉄当局と一体となり、火矢と化した「本部」反動分子が、乗務員運用合理化攻撃をかけてきている。いづれもこれは、八一年二期着工、三月ジェット延長攻撃そのものである。このことは、反対同盟と動労千葉の解体なくして二期工事

強行、三月ジェット延長ができないことを示している。逆にいえば、反対同盟、動労千葉が八一年三月二期工事阻止、ジェット延長阻止を主軸にかかけ、かつてない叩う巨額の陣型をつくり出すならば必ず勝利できることを示しているのだ。

動労千葉は八一年三月ジェット延長阻止を組紐の真価をかけて叩うことを決意し、密集せる反動を打ち破り叩いを前進させている。動労千葉10月総決起はかつてない高揚と活性化をつくりだし、「八一・三」勝利の展望をきりひらいた。なによりも「本部」反動分子が自らの裏切りを代償にした乗務員運用合理化「十一月一日強行実施」を粉碎した。全組合員のみならず、三里塚闘争の敵対者、三十五万人体制合理化の火兵「本部」反動分子を動労から一掃しよう。これこそが戸村委員長の遺訓に真にこたえる道であり、労働者の尊厳を守りきる叩いである。